

『プログレッシブ和英中辞典』（小学館）の第4版が2月28日に出版されました。ご存知の方も多いと思いますが、この辞書は津田塾大学の教師や卒業生が中心に執筆編集してきたもので、皆さんに職場や日常の生活でご活用していただければたいへんありがたいと存じます。

幸い本書の宣伝場所を与えられましたので、皆さんにこの辞典についてのご理解を深めていただきたく、この辞典の秘話、つまり、そもそもの始まりについて簡単に述べておきたいと思えます。

第二次世界大戦後の学制改革により、津田塾専門学校が4年制の大学に昇進して間もない頃のことでした。英文学科主任兼付属語学研究所所長であった土居光知先生が、難解なことばを並べるだけであった当時の和英辞典の使いづらさを批判し、新しい和英辞典の必要性を唱えられて、和英辞典の作成を語学研究所のプロジェクトのひとつとされたのです。この辞典は日英語を比較分析し、それをもとに語義や用例を明確にし、一冊で和英と英英辞典の両方の機能を持つものとするというのが目標でした。だがこのプロジェクトは難関を極め、年月が経つにつれて次第にメンバーも減り、短期の成果が見込まれないため、結局、語研のプロジェクトとして維持していくことができなくなりました。このような困難に当たって不屈の意思を持ち、中心となってまとめてくださったのが、今は亡き近藤いね子先生であり、その先生を支えていたのが、東北大学時代からの恩師でもあった土居光知先生に対する先生の深い敬愛の念だったのです。

当時はまだワープロという便利な機器も普及していませんでした。山のような紙の手書き原稿を整理し、形あるものにするという大変な作業を引き受けてくださったのが、井上鴻氏を初めとする小学館辞書編集部の方々でした。こうして遂に第1版が出版されたのが、1986年のことでした。それは企画がなされてからなんと四半世紀もの年月が経っていたのです。

豊かな用例を示し、「自然なよい英語」を書くための「使える辞書」を作ろうという私たちのスタンスは、辞書が読者に使われるにつれて評価が高まり、社会の第一線で活躍しておられる方々から中・高校生にいたるまでの幅広い層からご支持を賜ることができるようになりました。

だが、ことばは時代が動くに従って変化します。絶対的な辞書というものはなく、社会の変化を追って辞書は走り続けねばなりません。それが辞書作りの宿命なのです。その後1992年に第2版、2001年に第3版が出版され、時代に対応する辞書作りに専念してまいりましたが、政治・経済の変化のみならず、科学の急速な進歩、グローバル化、IT社会の普遍化、環境問題に対する人びとの意識の変容などに直面し、ここに第4版を出版するにいたりました。中辞典という制約の中で、できるだけ利用者の役に立つよう頑張ってきたつもりです。皆さまの温かいご支援ご批判を賜りますれば、執筆・編集者一同望外の喜びとするところです。

津田塾大学名誉教授

板橋 好枝